之居御座右方、取御手巾一帖長展之打懸御脇息上、次殿下召御楊箸、次奉御漬粉、令向御手洗給、

手水粉

○按ズルニ、漬粉ハ手面等ニ傅ケテ洗フヨリノ名ニシテ卽チ澡豆ナラン、

〔日中行事〕もんどのつかさ御手水をまいる、女官案にすへてもちてまいる、はんぞう二、たらひの中のはん、ゑろかねのうつは物二すへて、一には御てうづのこをいる御やうじ二ぐしてまいらす、

○按ズルニ、御てうづのこト云フハ、御手水ニ用キタマフ粉ニシテ、卽チ澡豆ナルベシ、

〔女重寶記〕一〕女けゑやうの卷

一てうずの粉には、もみぢ、まちかねよりは、赤小豆の粉、緑豆のこをつかひ給ふべし、はだへこまやかになり、あせぼ、にきびなど出でず、

髮洗粉

〔女重寶記〕一〕女けゑやうの卷

一髮もさい〳〵あらへば、ゑなあしくなるなり、あらはずして、あかおとしやうの藥、こうほん○藁本　びやくし○白芷　此二味をとうぶんにして粉になし、髮にふりかけ、ゑばらくしてすけば、あかおちて、ゑなよくなるなり、

〔都風俗化粧傳中髮〕髮を洗ふ傳

髮をあらふことは、髮のつやを出し、かみの脂ねばりを去らんがためなれば、度々洗てよし、夏の日は汗と油の腐たるにて、甚だあしき臭ひすれば、嗜てことに度々洗ひ惡臭ひを去るべきことなり、仕樣は、

ふのり　海蘿　うどんのこ　温飩粉

ふのりをさきてあつき湯につけ置、箸にてまはせば能解るなり、其中へうどんの粉を入れ搔交、熱きうちに髮へ能々すり付、又手にすくひためて髮を能々もめば、髮につきたる油こと〴〵く取る也、其後あつき湯にて髮を洗ば、能とけさばけるなり、其次に髮を水にて洗ひて後よく干髮